

武家名目抄稿

弓箭部

十一

和書門類	二五二〇六	函架	七	冊架	四九
------	-------	----	---	----	----

和書類	二五二〇六	函架	四九	冊架	一五三
-----	-------	----	----	----	-----

内閣文庫	
番號	和 25206
冊數	457 (293)
函號	153 275



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





武家名目抄稿茅十一冊

新編 弓箭部六目錄

箒

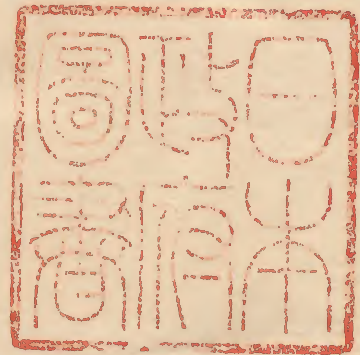
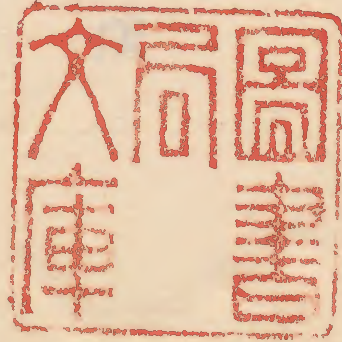
矢篋

矢串

矢竹

柳篋

ウスキ篋





カクウスキ篁

堅篁

青篁

荒篁

千夕篁

佐渡篁

薄篁

九白篁

塗篁

黒塗篁

黒漆摩節

節陰

十河節陰

管節陰

長節陰

大節陰



小節陰

寺以節陰

以久節陰

節黑

節塗

節村濃

廿八出篋

拭篋

魚之篋

篋卷

沓卷

子夕卷

樓帖首

編卷

矢束卷

力子卷



三節篔

四節篔

羽中ノ節

才ツ取ノ節

袖スリノ節

本矧ノ節

篔中ノ節

スヶ節

射付ノ節

篔トル

箸

水晶箸

白磨ノ銀箸

角箸

又夕箸

節箸



削筭

ヨ筭 今无

継筭

才七筭 今无

逆筭 今无

武家名目抄稿第十一册

弓箭部六

筭

倭名類聚抄云箭釋名云笑其體曰筭

音加

良旁曰羽去声

了倭大系紙云引田。} 末筭。} 友切。} 己

乃。} 竹子の末葉一二出末末末を一尺末より

切捨て八九月のらぬ其本を用ふ。} 子



すうのふくちも 法よくそよ記あり  
高忠聞書云 笠懸う。大射う。引目 抽こき  
ら 越う。と云了。其かの矢もをハのと云  
字を入る。ふらたうちあり 浦のう。四目  
の 抽 征 矢 乃 うう けん 志 乃 うう。志 人 志 うう 計  
うう。あう。いふ 志 あり

笠掛射子 射配記云 如らの 筆ささる 笠本  
也の 志 以 籠 略 儀 也 暗 の 時 乃 志 以 籠 本

射子あり 内くみてハふ若

矢籠

延喜兵庫寮式云 籠二百廿隻 必隻損分大

以前 進細 雉羽四百廿隻 必隻損分

物具装束 鈔云 平胡籙事 羽籠 箭十六也 此内落箭

射標六帖 矢衣笠内 大尺 武士の 杉ふてふ  
屋の ちむきしと 糺 志く なるしぬる

心うめ



矢串

古事記云於是與登美毘古戰之時五瀨命  
於御手負登美毘古之庸矢串云々

矢竹

太平記云俵藤竹ノ節近ナルヲ十五束三  
伏ニ拵ヘテ鏃ノ中子ヲ筈本迄打トホシ  
ニシタル矢只三筋ヲ手挟ミテ今ヤハ  
トソ待タリケル

柳篋

延喜氏部式云凡兵庫寮造箭柳篋四百廿  
隼人司袖絹二百隻並仰大和國每年交易

令送

箭篋以時採  
軌簡取強好

ウキス篋

中学集云輕重の事、的矢ハ大形うきすを  
用う了但面のの好う了うきは色を  
嫌ふものあれこのにしき



矢本秘傳云。き。す。篋。の。事。今。年。篋。不。葉。  
此。三。斗。以。き。多。時。久。し。解。す。也。

弓禮秘傳書云。一年たぢの。な。切。の。篋。を。了。  
き。す。と。し。ふ

カタウキス篋

弓禮秘傳書云。二年外を。片。う。き。す。と。し。ふ  
矢本秘傳書云。二年篋。か。う。き。す。と。し。ふ  
一年篋。う。き。す。と。し。ふ

堅篋

の出張記云。的。矢。堅。篋。本。あり。作。自然。く。

的。あり。ふ。は。作。是。も。異。し。く。作。たり

弓禮秘傳書云。三年外を。堅。篋。ト云

矢本秘傳云。的。矢。篋。の。事。二。三。年。篋。を。夏。切

の時。た。り。て。心。是。く。面。を。く。射。よ。き。あり

三年篋。う。き。す。と。云

青篋



岡本記云。あさ。の。と。中。の。事。ハ。而。ん。き。ま。あ。る。  
た。ま。ひ。き。い。く。方。乃。い。く。所。

荒篋

岡本記云。何。の。と。以。事。ハ。ま。あ。た。り。た。く。ま。  
ま。の。事。也。

午夕篋

中学集云。佐州知久の。一。つ。角。と。以。を。用。了。す。  
され。も。片。う。地。た。よ。と。く。お。り。ま。あ。り。

職人。各。各。合。矣。志。く。の。急。の。相。を。取。ら。ち。く。乃。  
と。て。あ。り。し。つ。ら。れ。て。乃。

佐渡篋

捲川親俊記云。亨文七年四月廿一日甲子。富  
春。佐。渡。篋。持。來。し。

薄篋

曾我物語云。一。中。人。を。こ。り。し。た。り。し。  
そ。の。ち。の。事。な。り。し。し。る。糸。ゆ。い。や。ま。あ。り。

ゆ。い。ぬ。事。に。か。し。ま。あ。り。し。て。あ。る。事。に。い。



日く敗すやうふつふもあれすしハ  
ゆつきりてこよまて舟のこゆふのり  
すくえねのやさし法ひあうやうを  
こめふい

白篋

平治物語云 内裏書 次あん中々しれ志んと  
あまう十六さいくあみのひくきふを  
とふよあひを ま。又 ね。あをまを

あはれ志ちれふとのあーめうはことう  
くちき あ。あ あ。白多のあふて  
やをいあえとうれ ゆ。あうて

平家物語云 遠条 和国小左部平義盛船の

馬小打乗馬のみと股法は体程にう  
あふ踏きし平家の勢は中を  
め あ。あ射る三町内  
法う あ。射る中も殊に遠う射る



お母一ヨ矢を以矢取んとて招きけり  
中細言知盛卿此矢をぬせて見取は公  
篋に鶴形本公崎の羽布ありせり  
矢若十三束三ふせありけり  
一束斗を以て和田小太郎平義盛と隣  
てそ書付し

源平盛衰記云 源平侍 遠矢條 三浦義盛ト三束二  
伏ノ白篋ニ山鳥ノ尾ヲ以テ羽ハイツリケルヲ羽

本一寸ハカリ置テ三浦平太郎義盛ト焼  
繪シタリケルヲヨ引テ兵ト放ツ知盛卿  
ノ船耳ニ立テ動ケリ

判官物指云 土佐藩堀川 一夢 條 あつれしていり

に人のありしゆのゆゑやいしりし  
見よと仰しりききんこもて入てえり  
あつれふくいのをともつてたも  
あつれおさしとるきあつて  
あつれおさしとるきあつて



おきこれ之十世えくにこーらてあす本れゆは  
みきり<sup>あ</sup>あを<sup>そ</sup>てそあきあ

<sup>中世八ラ</sup>兼久軍物詰云うまうあみう法のや四部

よりあう物<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>をいあうてああはけ

のいこふあううふ矢一はああうよりあり

あううに思ひてあきああうてえれああうのよ

山ああうてあひうけうり十三えく三ふ

そのあ

太平記云 公家一統 政道條 兵庫鎌ノ丸鞘ノ太刀

二 虎ノ皮ノ尻鞘カケタルヲ太刀懸ノ半

二 結テサケ白篋ニ節陰計少シ塗テ鶴ノ

羽ヲ以テ矧タル征矢ノ三十六指タルヲ

箬高ニ負成ニ所藤ノ弓ノ銀ノツク打タ

ルヲ十文字ニ拳テ云々

高忠誨書云大射切ハ白篋<sup>う</sup>ア<sup>お</sup>ハ<sup>真</sup>羽

本あり



又云一色四月ハ一ノ角ある一ノ白毘節を  
こころす

布衣記云弓志も矢も主にあへるやスヲ小  
こーらるあり矢の篋上さーやまハ白毘。を  
あり酌矢ハのさひうーた。一ノおハ多々れ  
おみてもそくあり但上さーと酌矢とのおハ  
鷹乃おさる一上指ハ四立ふそく。をきあり  
志こふそ上帯ハ手皮付也

又云弓志こもま何ひこるやうにこーらる也  
矢の篋上利。まきハ白毘。こまきあり  
又云弓矢事次矢黒うー一ふささす也おハ  
鞆。のお上指白毘お鷹羽鞆お何まへも  
用四羽ふそく也何もま知糸の上をハ紙まきに  
出るあり

弓礼秘傳書云白毘ハ思うー一ハ片事か  
騎馬具足次牙云指場ハ塗篋婦ハか帯を指



こと法は何れも古所相傳と云ふも白毘を用  
られり

射は方前書云わく矢はまきうゝ白毘

塗篋

平家物語云わく志あり國のちりきまの  
ちりきまきつきてをわけてくをわけてあり  
ぬのひらふをぬのひらふ大のやきまはてあり  
まきふしんごるまのやの十部馬のひらひ

武家伝つてみますれうゝ移ひそいころ

源平盛衰記云 宇治合戦條 明春今日ハ事ヲ好

テフ装束タル 中略 クロヲリノ籠ニマリノ

ニ黒ツ羽ヲモテ、キタル矢ノ廿四サレ

タルヲ頭タカニ負ナレツ

愚管抄云大將軍清盛ハ初、思ふさう、

て切古此直垂み黒革をきしに鏡ふぬるの

矢をわけて思き馬ふ兼て市所の中に此



布ハ引ヒせテ大鉄形の甲ヲ着テ着テ緒志免  
お出けり

清辨眼抄云長徳四年三月廿八日鷄鳴大  
宮大路東堀河西中御門南大炊御門北四  
町焼亡其火飛着神祇官屋焼亡予馳向彼  
神祇官装束縫腋不下重革帶卷加綏着帶  
塗篋班羽胡籙革緒如盗人搜取時装束  
衆車馳向云々

黒塗篋

源平盛衰記云

源平侍。遠矢余。黒塗ノ。十四束十儿

ヲ只今漆ヲ千ト削リノ今新居ノ紀四郎

宗長ト書付テ

飾抄云篋黒塗細能見也上差有水精鏑

道遙院右府装束抄云箭黒漆也上差ハ水

精ノ鏑アリ

黒漆摩節







射御格造方々の矢也。此。子。をぬる本也。  
本旨流聞書云。此。子。と云。洗。う。此。後。  
こ。も。多。く。は。た。ふ。漆。た。よ。う。て。今。乃。升。る。に。篋。  
月。節。目。ふ。く。し。を。た。ぬ。こ。も。を。云。  
又。云。節。乃。上。を。月。此。此。こ。と。く。に。く。し。を。た。  
ぬ。た。り。

上。賢。抄。云。子。此。子。を。く。し。こ。も。子。細。の。事。外。の。侍。  
か。し。む。河。篋。を。あ。ひ。く。忍。に。此。此。下。に。き。く。

あり。を。く。し。こ。も。お。ち。こ。も。を。ま。ふ。を。ま。あ。け。  
て。志。こ。も。よ。り。出。来。事。也。

弓。禮。秘。傳。書。云。矢。の。節。陰。を。く。し。事。若。作。の。  
如。志。を。う。ゆ。り。し。業。を。ぬ。く。し。多。く。あ。り。  
乃。し。み。心。も。何。り。と。て。これ。を。ま。ふ。以。て。節。  
陰。を。ぬ。り。ま。し。め。こ。も。を。ぬ。り。

矢。本。秘。傳。云。矢。に。ゆ。り。を。ぬ。事。乃。竹。の。  
如。志。を。ぬ。ゆ。り。し。枝。を。ぬ。く。し。こ。も。を。表。し。て。







用あり

弓法秘傳聞書云。ふ。ふ。ふ。ふ。と云。短く塗  
る。云。あり。後。腰。を。ぬ。く。と。う。ふ。と。ハ。チ  
矢。本。秘。傳。云。ぬ。ふ。と。云。ハ。ふ。の。口。付。を。か  
ぬ。た。る。を。云。也。海。と。あ。う。ぬ。り。て。き。川。と  
ぬ。り。こ。あ。た。る。を。ハ。ふ。と。ふ。と。云。あり

長節陰

弓法私書云。長くぬりてぬり。と。あ。を。う。す。

ぬり。う。を。ハ。長。ふ。と。云。あり

御弓場始次弟聞書云。長節。射。と。中。も。三。ふ  
せ。の。事。也

大節陰

扇鏡云。長。ふ。と。ハ。小。ふ。と。ハ。的。矢。不。可。然。く  
と。ふ。と。ハ。大。ふ。と。ハ。

小節陰

弓法私書云。ふ。と。ハ。小。と。云。ハ。ふ。と。云。ハ。ふ。



此よりすりかぬりしるを云也

御弓場始次第聞書云小節。就と云ぬ

此下小をやくふゆり百矢あり味等也晴

此のふ不用

又云所の射は箭事小節。候へりしる

キツ節

ウス節

佐竹宗三聞書云節。就をとき色ふぬり

このまは<sup>まい</sup>き<sup>。</sup>た<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>と<sup>。</sup>さ<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ぬ<sup>。</sup>た<sup>。</sup>を<sup>。</sup>

すぬ<sup>。</sup>と<sup>。</sup>云<sup>。</sup>是<sup>。</sup>等<sup>。</sup>の<sup>。</sup>矢<sup>。</sup>長<sup>。</sup>さ<sup>。</sup>三<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>せ<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>ぬ<sup>。</sup>也

少の短長は<sup>。</sup>さ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>し<sup>。</sup>に<sup>。</sup>三<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>せ<sup>。</sup>し<sup>。</sup>り<sup>。</sup>長<sup>。</sup>の<sup>。</sup>作

た<sup>。</sup>矢<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>て<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>の<sup>。</sup>に<sup>。</sup>指<sup>。</sup>三<sup>。</sup>さ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>の<sup>。</sup>を<sup>。</sup>一<sup>。</sup>に<sup>。</sup>た

ま<sup>。</sup>り<sup>。</sup>し<sup>。</sup>め<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>ゆ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>中<sup>。</sup>に<sup>。</sup>た<sup>。</sup>や<sup>。</sup>以<sup>。</sup>た<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>り<sup>。</sup>

このまありは<sup>。</sup>す<sup>。</sup>法<sup>。</sup>秘<sup>。</sup>祝<sup>。</sup>あり

節黒

御弓場始次第聞書云の矢のふ<sup>。</sup>ぬ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>し<sup>。</sup>







廿ハニ篋

尺素往來云征矢白篋拭篋節村濃或黑漆

布衣記云次矢黑漆ニサハス也羽ハ鷲ノ

羽上刺ハ白篋鷹ノ羽

高忠尚書云的矢のこーら一様の事はさー

篋さるーさけふを志やささー

又云矢忽ち此事さー篋本ありぬー

羽中を志やささー三ふー篋本也のこい篋

畧儀あり古すハ的矢のことくたさー

罔本記云さゆさささーのにす。事ハ

うれ志のをいしてす。心ありぬんハ志

徒あり

又云うふさをもささーたふす。事何これ

た、いしてめ心あり

上賢扱云一子志んささの格様の事篋さ

さ。篋た。了ふかけをとりてぬさ



弓矢秘傳書云。矢をさし。とふこと。ハゆ。ハ  
ゆ。ち。矢。矢。矢。事。あり

的場出次第云。的矢ハ。ふ。ハ。子。ゆ。た。ま。り。見  
み。て。比。さ。り。の。も。不。苦。下。去。果。實。と。紅  
ろ。之。了

拭篋

捲川親順訓書云。的矢。之。様。の。事。形。と。  
ハ。篋。も。さ。る。あり。但。果。實。あり。之。的。あり。の

時ハ。一。一。一。一。それ。も。式。の。圍。的。あり。又。ハ。百  
手。あり。の。時。ハ。の。こ。ひ。篋。あり。ハ。射。ま。き。也  
法。所。的。あり。の。時。ハ。中。不。及。ふ。可。知。あり  
高。忠。訓。書。云。一。手。志。ん。と。う。を。は。り。ふ。こ。一。ら  
や。時。ハ。の。こ。ひ。の。ふ。す。る。あり。所。時。ハ。ま。き。免  
あ。る。こ。一。一。ゆ。り。て。ハ。免。を。ゆ。ハ。思。く。ゆ。  
あり。是。ハ。果。實。あり。志。ん。と。う。乃。本。ハ。不。定。也  
いら。本。ゆ。り。志。ん。と。う。も。ち。や。り。あり







射自方聞書云松いぢやあてまうふ右かすま  
もす一陰ハとすも 村。篠ふハす

焦シ篁

高忠守書云大射可々をこころ。篁ふすること  
うろーかす但略儀ありきま。時自也  
又云一島の四月かすハ必篠さる。中又こころ。  
篁ふす。あり 略儀あり

捲川親順聞書云小笠忽の矢のこころ之様

の事篁ハこころ。篁ありをす。ハ切竹の節  
をけつりてほや。す。あり

大追物日記云小笠忽事 中引日半引

目九日こころ。篁ハる

篁卷

判官物語云 忠信吉野 山合 戦余 川つ 残石 ぶんを

その日のもんてハ世人をより海へはにふれ

す以てさちたさう。始よりこのさけ六尺







いりれハ二町々うちも此ものをハつた  
いりる多そ之ー其申ふことよみとま  
言と相得きやを其や給んともま  
きる新中ふんともり此卿とのやを  
して之給へつれもあつた此をア  
あせてはいるやの十二三ふせあり  
みろまきより一かくつをソクつた  
たつたよりまるとうーあててのさつ  
らる

吾妻鏡云治承四年十一月廿六日甲戌山  
内瀧口三郎経俊可被<sub>レ</sub>斬罪之由内々有  
其沙汰彼老母武衛卿乳母開之為救愛息之命  
泣参上申云資通入道仕八幡殿為廷尉禪  
室御乳母以降代々間竭<sub>二</sub>微忠於源家不可  
勝計就中俊通臨平治戰場曝<sub>二</sub>骸於六條  
河原訖而經俊令与景親之條其科責而雖  
有餘是一旦所憚平家之後聞也凡張軍陣



於石橋迎之者多預恩赦歟經俊亦盡被優  
曩時之功哉者武衛無殊御旨可進所預置  
鎧之由被仰實平々々持參之開櫃蓋取出  
之置于山内尼前是石橋合戰之日經俊箭  
所立于此御鎧袖也件箭口卷之上注瀧口  
三郎藤原經俊自此字之際切其篋乍立御  
鎧袖于今置之太以掲焉也  
判古物語云 土佐房堀り  
ありれまていり  
一寄る條

とに人のちり之のゆゑやゆえと申せ入る  
又よと傳らるまさんいせし入る見れ  
志のふくしつをまわすもねさるにさ  
とのむきしとなき志ありある  
まきのうへ十四さくはこいらてある本のゆ  
このふきまぬとある城をてそおき多

十五十三ヲ  
太平記云 五月二十七日 合戦條爰は妙觀  
院ノ因幡ノ豎者全村トテ三塔名譽ノ惡



僧アリ鎌ノ上ニ大荒目ノ鎧ヲ重テ備前  
長刀ノシノキサカリニ菖蒲形ナルヲ脇  
ニ挟ミ篋ノ太サハ尋常ノ人ノ墓目カラ  
ニスル程ナル三年竹ヲモキツケニ押削  
テ長船打ノ鏝ノ五分鑿程ナルヲ箬本迄  
中子ヲ打徹ニメ子々スケ沓卷ノ上ヲ琴  
ノ絲ヲ以テ子々卷ニ卷テ三十六卷タル  
ヲ森ノ如ニ負成シ態ト弓ヲハ不持

<sup>廿七ノヲ</sup>太平記云義貞軍條義貞此軍門ニ罷向テ候也

ソレカアラマカ矢一受テ知給ヘトテニ  
人張ニ十三束ニ卧飽マテ堅メテ引シホ  
リ絃音高ク切テ放ツ其矢ニ重ニ搔タル  
高槽ノ上ヲ越テ將軍ノ座ニ給ル帷幕ノ  
中ヲ本堂ノ良ノ柱ニユリユリテクツ  
マキ過テソ立タリケル

家中竹馬託云矢越々不ぬす振ハぬの方越人



の右へ一く尤もては能中邊を持て居り  
ハ習ま知り乃あつてを打て出さる

子夕卷

蝶帖首

太平記云 正月二十七日 爰ニ妙觀院ノ因幡

堅者全村トテ三塔名譽ノ惡僧アリ録ノ

上ニ大荒目ノ鎧ヲ重テ備前長刀ノレノ

キサカリニ菖蒲形ナルヲ脇ニ挟ま篋ノ

太サハ尋常ノ人ノ躰目カラニスル程ナ

ル三年竹ヲモキツケニ押削テ長船打ノ

鏝ノ五分鑿程ナルヲ筈本迄中子ヲ打徹

ニノ子午スケ沓卷ノ上ヲ琴ノ絲ヲ以テ

子夕卷ニ卷テ三十六差タルヲ森ノ如ニ

負成シ態ト弓ヲハ不持是ハ手衝ニセン

カ為ナリケリ

本卷上卷

今川大双紙ヲ矢乃卷目此寸法事新也



五分皆卷六分本卷六分上卷三分ケラケ  
ヒ三分卷目其ゆり純時ハ乃其昆出カ  
けたる一赤い紙一此時ハ名篋有る一  
射而拾遺抄云福<sup>。</sup>の<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>と<sup>。</sup>つ<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>向<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>の  
う<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>や<sup>。</sup>く<sup>。</sup>を<sup>。</sup>云<sup>。</sup>あり

弓馬問答云笠懸幕目乃ハハ丸く事本皮  
半分ハ裏皮を法ふ也一福<sup>。</sup>の<sup>。</sup>卷<sup>。</sup>と<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>す  
表<sup>。</sup>と<sup>。</sup>同<sup>。</sup>一分<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>き<sup>。</sup>也<sup>。</sup>羽<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>鷹<sup>。</sup>の<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>羽<sup>。</sup>を<sup>。</sup>奉<sup>。</sup>と<sup>。</sup>

す<sup>。</sup>あり

甲<sup>。</sup>陽<sup>。</sup>軍<sup>。</sup>鑑<sup>。</sup>云<sup>。</sup>矢<sup>。</sup>の<sup>。</sup>一<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>之<sup>。</sup>一<sup>。</sup>面<sup>。</sup>と<sup>。</sup>セ<sup>。</sup>い<sup>。</sup>を<sup>。</sup>糸<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て  
と<sup>。</sup>り<sup>。</sup>て<sup>。</sup>それ<sup>。</sup>を<sup>。</sup>四<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>折<sup>。</sup>り<sup>。</sup>一<sup>。</sup>分<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>し<sup>。</sup>り<sup>。</sup>て<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>  
を<sup>。</sup>一<sup>。</sup>三<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>に<sup>。</sup>お<sup>。</sup>一<sup>。</sup>分<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>し<sup>。</sup>り<sup>。</sup>て<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>を<sup>。</sup>一<sup>。</sup>四<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>ふ  
折<sup>。</sup>て<sup>。</sup>一<sup>。</sup>分<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>の<sup>。</sup>け<sup>。</sup>に<sup>。</sup>三<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>分<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>と<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>を<sup>。</sup>一<sup>。</sup>折<sup>。</sup>て<sup>。</sup>一<sup>。</sup>分<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>  
二<sup>。</sup>ツ<sup>。</sup>ふ<sup>。</sup>打<sup>。</sup>て<sup>。</sup>福<sup>。</sup>の<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>を<sup>。</sup>一<sup>。</sup>皆<sup>。</sup>の<sup>。</sup>く<sup>。</sup>と<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>つ  
ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>地<sup>。</sup>坤<sup>。</sup>福<sup>。</sup>の<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>の<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>在<sup>。</sup>糸<sup>。</sup>あり

篇  
卷



弓張記云。初。まゝの初。まゝ記。り。了。り。也。  
ま。だ。も。云。初。の。巻。も。云。あり。

矢束巻

射御拾遺抄云。矢。は。り。ま。さ。の。事。に。ま。ま。  
ま。ま。の。事。の。あ。い。矢。は。り。二。ゆ。せ。あ。く。一。て。  
その。ま。ま。を。巻。あり。ゆ。ふ。も。あ。ま。も。巻。  
て。う。り。を。さ。す。これ。を。矢。は。り。巻。と。は。り。也。  
この。巻。は。よ。ふ。巻。を。い。ふ。あり。

弓張記云。矢。は。り。巻。と。云。事。如。ゆ。矢。ふ。か。  
ま。り。の。事。あり。よ。の。矢。ふ。あ。記。事。也。切。ふ。  
ら。よ。望。笑。の。方。か。り。希。々。巻。と。る。也。矢。は。  
り。ま。ま。と。い。ふ。あり。

カ子巻

射御拾遺抄云。初。の。巻。と。云。は。志。ん。と。い。ふ。也。  
の。ま。あ。い。の。目。の。ま。ま。と。い。ふ。也。を。巻。を。  
云。一。矢。ふ。り。記。ま。り。



三節 篋

高忠聞書云弓矢此也。此名又矢のふし。此名  
あふく。小よ。申。小。百。尋。中。時。以。返。事。に。弓  
此。ふ。し。乃。名。法。し。あ。ふ。満。く。小。矢。の。所。ハ  
ま。く。矢。ふ。ハ。三。ふ。く。本。に。て。小。又。一。子。志。ん。さ。く  
一。子。志。あ。ふ。三。婦。し。本。に。て。有。く。矢。は。其  
矢。の。ゆ。し。ハ。前。に。あ。る。而。も。ハ。中。に。て。く。此。ゆ  
以。返。事。し。少。也。

四節 篋

射而拾送抄云矢此ふし。の事。累。し。篋。七。く  
る。し。の。り。

羽中ノ節

高忠少書云大射。う。笠。懸。う。小。笠。懸。乃。  
う。か。婦。矢。の。う。う。か。婦。う。う。あ。を。ハ。ハ。  
中。を。本。に。出。る。也。  
侍。林。字。三。閑。書。云。的。矢。の。所。ゆ。ふ。ハ。中。















あり持きふりあつち乃法量ふり又的矢  
と志々々にいつけのふい虫まゆもつうを以  
けと以ふみきく此謬也

武田弓箭故實云矢ノスケ節ヲ射付ノ節  
ト云マト的矢ニカキリタルマト也其謂  
ハツクラヲ射付ト云夫ヨリ的矢ニカキ  
リ射付ノフシト云コトナリ異矢ノ射付  
ノフシト云コト有ヘカラス的矢ヲスケ

節トモ可言ナリ

弓張託云矢ふよりて一ヤキの如しの事  
的矢の射法けりふ也

中嶋按津守宗次此云常に矢の面取と云  
事ハ射付の節の事也

篋トル

岡本此云乃と云と事ハたは良矢つ  
をいよめて終くもす息をきりてゆく多



むらぎをり也

箬

倭名類聚抄云唐韻云箬古活反箭受弦處

也

源平盛衰記云源平侍平家不安思楯突一

人弓取一人打物一人已上三人小船二衆

リ陸二押付ケ濱二飛ヒ下楯突向一テ寄

ヨクヨト源氏ヲ招ク判官ハ若者共蒐出

テ蹴散ト下知シ給ハ武藏國住人丹

生屋フヤ十郎同四郎等テノイテ蒐ク十五束

ノ塗篋二鷲ノ羽鷹羽鶴ノ本白矯合セ夕

ル矢ヲ以テ先陣ニスム十郎カ馬ノ草

別ヲ箬際射籠ミ夕レハ馬ハ屏風ヲ返カ

如ク倒レケリ

今川大双紙云箬此名所ハカニ以弦持め

ニ一浦き内をハ急りと云あり







物具装束世七云平胡篠事羽篋此箭十六也水。

精括箭又没須トモ

白磨ノ銀箭

太平記云關東大勢上洛條長崎悪四郎左衛門尉

ハ別々侍大将ヲ兼テ大手へ向ヒケルカ

態已カ勢ノ程ヲ人ニ被知トヤ思ケレ一

日引廿カリテソ向ヒケル其行状見物ノ

目ヲソ驚シケル中略一部黒トテ五尺三寸

有ケル坂東一ノ名馬ニ鹽于瀉ノ捨小舟

ヲ金具磨タル鞍ヲ置テ款冬色ノ厚總懸

テ三十六差タル白磨ノ銀箭ノ大中黒ノ

矢ニ本滋藤ノ弓ノ真中握テ小路ヲ抜シ

ト歩マセタリ

角箭

長門本平家物語云日吉神靈生年三十四

平氏七尺をうたる松これ志ろくきよ







続

岡本元次ハ。すの物の事ハ大封。う。等。を  
う。小笠原のう。四目のう。常。の。と。より  
一。手。四。月。廿。九。日。次。了。又。一。手。志。ん。と。う。又  
一。手。一。月。の。志。ん。と。う。常。み。い。ま。う。と。ま。の  
一。手。矢。代。志。ん。と。う。う。ま。う。と。う。の。う。と。ま。  
一。手。や。な。と。う。ハ。う。の。法。く。了。

武家名目抄稿第十一冊

明治十五年七月三十日 旧稿校正 小野 由久

同年八月九日 再校并書 日下部 利博

同年同月十六日 校合 小野 由久

明治十六年九月

校合

鈴木行一







